

瓦落下実験ひび割れだけ

TVで放映

サイバーレース

サイバーレース(千葉県流山市流山)は「ガラスフィルムは自分で貼れる」を提唱している。「品ぞろえ・価格競争力業界ナンバーワン級」を自負しており、フィルム張りの作業について「自分で貼ればコストは三分の一」という。

五月八日、たつまき・突風対策として、ガラス割り実験が行われ、日本テレビの「ニュースエブ

リー」で放映された。厚貫通防止フィルム「GS350」を張り付け、そこに三メートルの高さから瓦を落下させた。二度にわたって落下させたが、ガラスはひび割れをしたが、貫通には至らなかった。

これは、五月七日に茨城県つくば市で竜巻が発生しガラスが割れ、屋根が吹き飛ばす大な被害が出たことを受けたもの。

この災害で、多くの被災者が室内に散乱したガラスの処理に困り、割れた

ガラスが凶器となる場合もあった。飛散防止フィルムを張ることで防ぐことができる。

実験装置はEN3556落球試験装置で同社に常設している。使用ガラスは五ミリの透明フロート、サイズは九〇〇ミリ角。瓦は重さが二・六キロ。落下させた高さは約三メートル。

五ミリ厚の透明フロートガラスにフィルムを張り付けなかった場合、簡単に割れて貫通した。ガラスは粉々になり飛散した。

次に350ミクロン厚貫通防止フィルムを張り付けたガラスを使った。一回目ではガラスにひびが入ったが破けず、下側

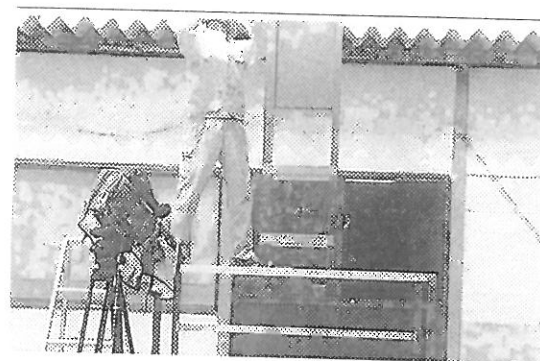
り付けなかった場合、簡単に割れて貫通した。ガラスは粉々になり飛散した。

同じ条件で一度実験したガラスに二度目の落下実験を行った。フィルムが一部やぶけたが、貫通はせずガラス飛散も極小であった。

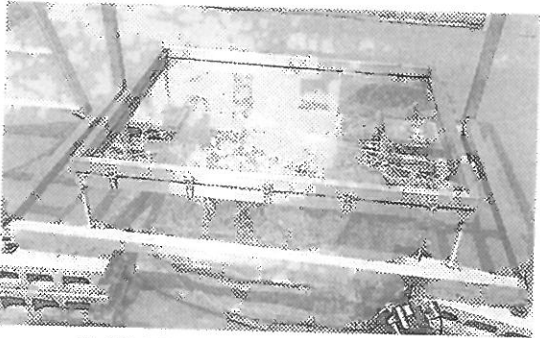
竜巻のような災害で

は、①突風や飛来物で窓が割れる②内側に入った風が出口を求め屋内を強くおそう③家屋内の圧力が高まり屋根が浮き上がり家屋が倒壊する④という。強風により上空の負圧が大きくなると、屋根が浮き上がりやすくなる。

同社によると防犯・貫通防止・防災効果はフィルムの厚さにほぼ比例するという。「GS50K」(飛散防止)、「GS100K」(強飛散防止・怪我防止)、「GS200K」(竜巻・空き巣対策推奨ナンバーワン)、「GS350」(竜巻にも強い本格防犯フィルム)、「SL50A/SL20A」(シルバー反射遮



3メートルから瓦を落下させた



ひびは入ったが貫通はしなかった

熱兼防災)、「X-3」(透明断熱兼強防災)、「TL70」(透明断熱兼貫通防止)、「凹凸ガラス専用貫通防止・防災フィルム」がある。「SLA」シリーズは強飛散防止効果・こじ破り空き巣対策と熱線遮断(省エネ対策)を兼ねたアルミ蒸着フィルム。「SL20A」は遮熱効果が大きく、シルバー反射が強くなる。「SL50A」は遮熱効果は中。適度なシルバー反射で両グレードとも、日中、建屋内から外は長く見え、外からはほとんど見えない。日中、カーテンを開けても視線がカットできる。